

ガランタミンOD錠 「ニプロ」を服用される皆様と ご家族・介護者の方へ

監修：朝田 隆 先生

筑波大学 名誉教授

医療法人社団 創知会 メモリークリニックお茶の水 理事長



はじめに

現在、わが国では高齢化が急速に進むなかで、認知症になる人が増加しています。認知症を引き起こす医学的な原因は、70 種類以上もあるといわれています。もっとも多い認知症はアルツハイマー型認知症で、全体の6割以上を占めています。

アルツハイマー型認知症では認知機能が少しずつ低下していきますが、認知症の進行を予測し、機能を維持し、進行を遅らせることはできます。病気を理解して前向きに治療に取り組み、日々の生活をいきいきとしたものにするために、この冊子が一助となることを心から願っています。

監修：朝田 隆 先生

筑波大学 名誉教授
医療法人社団 創知会 メモリークリニックお茶の水 理事長

目次

- アルツハイマー型認知症とは？
..... 3
- アルツハイマー型認知症の症状
..... 5
- アルツハイマー型認知症の治療
..... 7
- ガランタミン OD 錠「ニプロ」について
..... 9
- このお薬を使ったあと気をつけていただくこと
(副作用) 11
- 認知症患者さんに対する介護のポイント
..... 13

アルツハイマー型認知症とは？

20 年から 30 年かけてゆっくりと脳が縮む病気

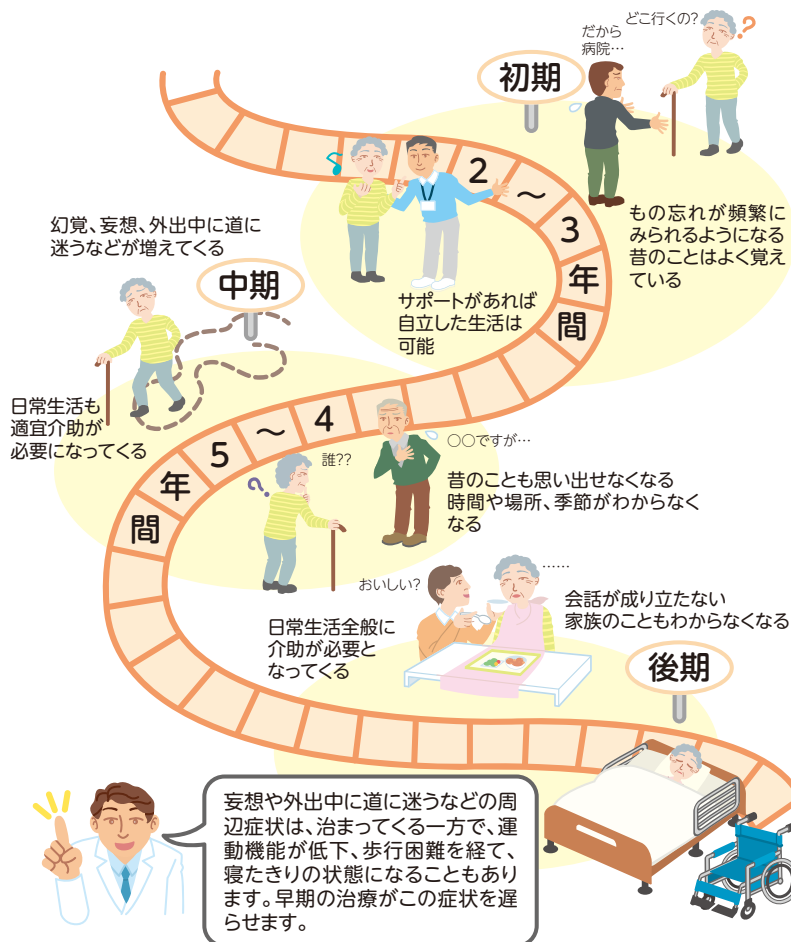
アルツハイマー型認知症とは、何らかの原因で脳の神経細胞が壊されたことによって起こる症状や状態をいいます。

おおもとの原因は今のところわかっていませんが、患者さんの脳全体が長い時間をかけてゆっくりと縮んでしまう病気です。

認知症になったからといって、いきなり何もかも忘れてしまうわけではなく、症状は少しずつあらわれます。初期の段階では記憶力が低下し、イライラしたり不安になったりしますが、身の回りのことは自分でできるので日常生活を送ることができます。中期になると日常生活にも問題が生じるため介助が必要になってきます。後期には日常生活にも全面的な介助が必要となるとともに、家族のことがわからなくなります。ただ、本人はわからないこと自体を判断できなくなるため、不安がやわらぎおだやかな気持ちになる傾向があります。

アルツハイマー型認知症の 進行と経過

ゆっくり徐々に進行するアルツハイマー型認知症



アルツハイマー型認知症の症状

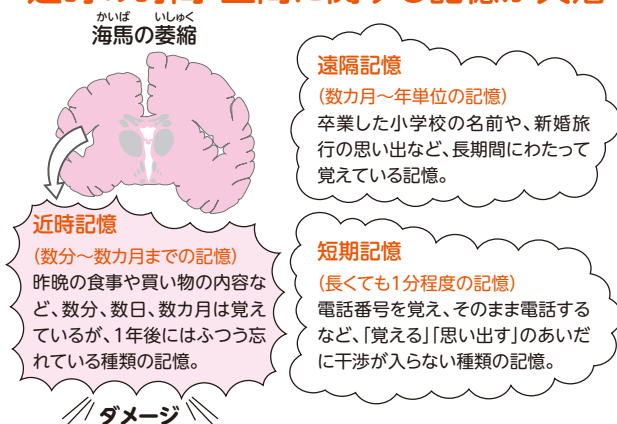
日時・場所の混乱から記憶に異変が生じます。

アルツハイマー型認知症の代表的な症状は記憶の障害です。記憶には覚えている期間が短い順に短期記憶、近時記憶、遠隔記憶があります。

アルツハイマー型認知症になると記憶をつかさどる^{かいば}海馬を中心に、脳全体の^{いしゆく}萎縮が始まります。

^{かいば}海馬が^{いしゆく}萎縮すると近時記憶から障害されますが、短期記憶は障害されないため、直前のことは覚えていて会話はふつうにできます。

近時の時間・空間に関する記憶が欠落



朝田隆・専門医が教える認知症・幻冬舎・2016より改編

また、自分の体験であるエピソード記憶が障害されるのもアルツハイマー型認知症の特徴です。

近時記憶とエピソード記憶の障害により、時間や空間がわからなくなったり、ものごとの全体を忘れてしまいます。忘れてしまったことを人から言われると、ごまかしたり、とりつくりうのも特徴的です。

誰にでも共通してあらわれる中核症状

- **記憶障害**

今さっきのことを覚えていない／同じものを何度も買ってくるなど

- **見当識障害**

食事を何度も催促する／家族がわからなくなるなど

- **実行機能障害**

以前はできていたことができなくなる／料理に時間がかかり、味が変わるなど

環境や性格、人間関係などの要因で起こる周辺症状

- **疑い深くなる**

- **不安・うつ状態になる**

- **外出中に道に迷う、どこともなく歩き回る**

- **怒りっぽく、攻撃的になる**

- **昼と夜が逆転する（夜間に動き回る）**

- **自分から何かをしようとしなくなる**

アルツハイマー型認知症の治療

アルツハイマー型認知症の治療

アルツハイマー型認知症を根本的に治す方法はまだありません。積極的なリハビリテーション、適切な介護、進行を遅らせる薬で「患者さんと家族がよりよく生きられる時間をできるだけ長くすること」を目標に行います。

認知症治療の柱、「非薬物療法」と「薬物療法」

非薬物療法

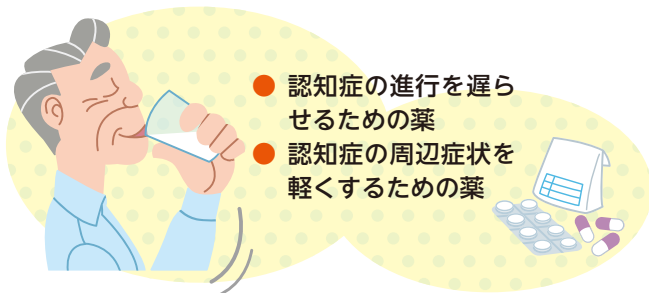
■ リハビリテーション

- 脳の低下していく機能や、これまで使われていなかった神経細胞に働きかけ、刺激を与える
- 生きていることを実感させ、自信を持たせる

■ 介護

- 患者さん本人に安心・安全の感覚を与える

薬物療法



- 認知症の進行を遅らせるための薬
- 認知症の周辺症状を軽くするための薬

朝田隆・ウルトラ図解認知症・法研・2016より改編

認知症治療の薬物療法

認知症の薬物療法

- 神経伝達物質を助けるコリンエステラーゼ阻害薬
- 神経細胞の破壊を防ぐ NMDA 受容体拮抗薬
- 神経細胞のまわりに蓄積する異常なたんぱく質「アミロイド β 」の凝集体を取り除く抗アミロイド β 凝集体抗体

ガラントミンによる病気の進行を遅らせる治療

アルツハイマー型認知症の患者さんの脳内では、アセチルコリンという神経伝達物質が不足していることがわかっています。

ガラントミンは、このアセチルコリンを分解する酵素であるアセチルコリンエステラーゼの働きを阻害し、脳内のアセチルコリンの濃度を上昇させます。加えて、ガラントミンはニコチン性アセチルコリン受容体にも結合し、アセチルコリンによる同受容体の活性化も増強することが、特徴となっています。これら2つの作用によって、アセチルコリンの神経伝達効率を高めています。

アセチルコリンとは脳内で神経細胞どうしが情報を伝え合うために分泌される物質で、記憶や認知機能と深く関係しています。

ガランタミンOD錠「ニプロ」について

お薬の効果

ガランタミン OD 錠「ニプロ」は、脳内での情報の伝わりをよくし、記憶力・判断力低下などのアルツハイマー型認知症の症状の進行を遅らせます。

このお薬は症状の進行を遅くする効果を持っていますが、病気そのものを完治することはできません。

また、人によって効果は異なる場合もあります。

服用方法

1日8mg（1回4mgを1日2回）の服用から開始し、



4週間後に1日16mg（1回8mgを1日2回）に増量します。

◎症状に応じて1日24mg（1回12mgを1日2回）まで増量できます。
（増量する場合は変更前の用量で4週間以上服用した後に増量します。）

指示された服用方法を必ず守ってください。

Q お薬を飲み忘れた時は？

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

Q お薬は本人にまかせていいの？

お薬はきちんと服用することが大切です。頻回の飲み忘れがある場合、本人にまかせるのではなく、ご家族・介護者の方が管理し、本人がきちんと飲めたかどうかの確認をお願いします。

Q 調子がいいようです。もうお薬を止めていいの？

お薬を3カ月（12週間）以上服用した後に中止すると、治療しないのと同じ状態になってしまうことがありますので、お薬は勝手に中止しないでください。

Q 車を運転しても大丈夫？

病気が原因で運転がうまくできなくなることがあります。またお薬の服用で意識障害、めまい、眠気などがあらわれることがあるので、車の運転など危険を伴う機械の操作は注意してください。

このお薬を使ったあと 気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、嘔吐、食欲不振、下痢、食欲減退、頭痛などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような場合には、使用を止めて、すぐに医師の診療を受けてください。

- 気を失う、息切れ、めまい [失神、徐脈、心ブロック、QT 延長]
- 熱が出る、皮膚の赤い発疹、水疱が化膿してうみをもった小さい発疹 [急性汎発性発疹性膿疱症^{きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう}]
- 食欲不振、体がだるい、吐き気 [肝炎]
- 手足の筋肉の痛み、こわばり、しびれ [横紋筋融解症^{おうもんきんゆうかいしょう}]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

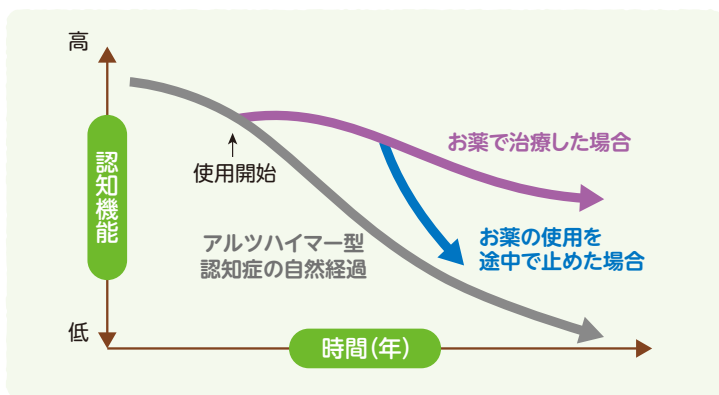
服薬を続ける大切さ

お薬の使用開始後しばらくは、使用前より認知機能が改善するケースがみられます。改善の程度は、開始時点での認知機能の程度などによって異なります。

アルツハイマー型認知症は徐々に認知機能の低下が進行していきます。そのため、薬の効果が薄れてきたように感じるかもしれません。しかし、薬によって認知機能の低下のスピードを遅らせていることがわかっています。

お薬は体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。処方されたお薬を指示どおりに飲み続けることが重要です。

お薬による認知機能の変化(イメージ)



認知症患者さんに対する 介護のポイント

1. 本人の気持ちに寄り添うサポートをしましょう

- 不安を取り除き、心おだやかになれるようにサポート
- 自尊心を高めてあげられるようなサポート

2. 何度も同じことを質問されたら

- 認知症の人は返答を聞くことで安心し、気持ちが落ち着きますので、何度でも答えるようにすることが大切です。

3. 妄想や幻覚を訴えられたら

- 妄想や幻覚を否定するのではなく「それは大変ですね」と共感してあげることが大切です。

4. 不要な買い物や収集をする場合は

- 「こんなに買い物してどうするの？」と問い詰めないで、買い物に付き添ったり、必要なお金しか持たせないなどの対策を考えましょう。

5. 感情の高ぶりや気持ちの落ち込みがある場合は

- 認知症の人は突然大声でわめいたり、興奮して怒り出したりすることがあります。多くの場合、引き金となる出来事があるものですから、その“引き金”がわかったら対策を講じることが大切です。

6. 外出中に道に迷う、どこともなく歩き回る場合は

- 無理に連れ戻そうとはしないで、一緒に歩いて見守る、連絡先がわかるようにするなど認知症の人の安全を確保することが大切です。

7. お薬を正しく服用してもらうために

- 飲み忘れ、飲み過ぎを防ぐために「お薬カレンダー」や「お薬ケース」などを活用しましょう。



介護の相談

もっと知りたい介護サービス

介護サービスの詳細や、全国の介護サービス事業所は、都道府県および、厚生労働省によって運営されるホームページで公表されています。利用目的や地域・サービスの内容などの条件から約 21 万カ所の事業所が検索可能です。

■ 介護事業所・生活関連情報検索 介護サービス情報公表システム
<https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

専門医に相談

学会に認定された専門医または施設を検索できるホームページ

● 日本認知症学会

「全国の認知症専門医リスト」

<https://square.umin.ac.jp/dementia/g1.html>

● 日本老年精神医学会認定

「こころと認知症を診断できる病院&施設」

http://184.73.219.23/rounen/H_sisetsu/r-H.htm

医療機関名